

## 建設産業政策会議のとりまとめに当たって

WG等を含め建設産業政策会議における議論は多岐にわたったが、とりまとめに当たり、その根幹となる

「建設産業は何を目指すのか、そのために注力すべきことは何か」  
 について、ご議論いただきたい。

(例)

- －国民生活の安全・安心と経済成長への持続的な貢献
- －そのために必要な生産性向上と働き方改革による「現場力」確保

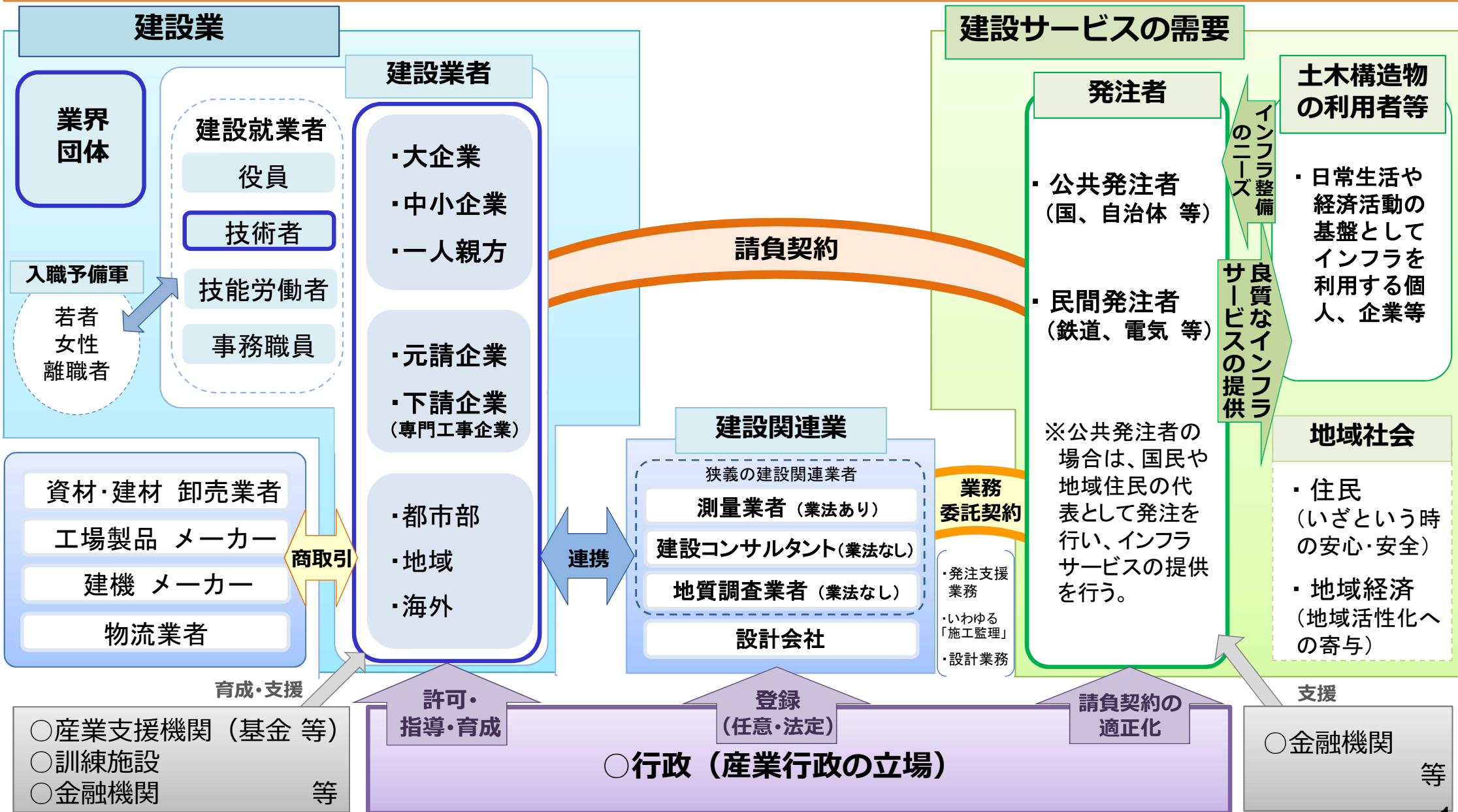
(参考 1) 建設産業を捉える視点と建設産業に求めるもの (例)

国民生活の視点	日常生活の利便性や身近な安心、災害時の安全
発注者（顧客）の視点	建設工事の品質の確保・向上、発注に際しての信頼と安心、金額に見合う価値
建設業就業者（将来の就業者を含む）の視点	処遇の改善（所得、休日等）、やりがいや「誇り」
建設企業の視点	建設企業としての存続・発展、従業員の確保と処遇の改善、収益力の向上
日本経済の視点	経済成長を支える基盤の整備、投資を形にする施工力の確保、海外展開
地域の視点	地域の守り手、地域経済への貢献

(参考 2) 建設産業を取り巻く社会経済の変化 (例)

- ・ 少子化・高齢化に伴う全産業的な労働力人口の減少
- ・ 長時間労働の是正等の働き方改革の要請
- ・ インフラ等の老朽化の進行
- ・ AI、IoT等のイノベーションの劇的な進展
- ・ 大都市と地域間、大企業と中小企業間の格差
- ・ アジア等におけるインフラ需要の増加と不透明な国際情勢

建設産業は、インフラの整備・維持管理等を通じて良質なインフラサービスを提供するとともに、地域住民の安心・安全を確保し、地域経済を活性化する上で必須の存在



※ 太枠が現行の建設業法の射程範囲

建設産業は、建築物の整備・維持管理等を通じて良質な建築サービスを提供することに加え、住宅など、国民の基本的な生活を支える上で必須の存在

